佐渡金山世界遺産への道

―先行事例を踏まえた観光客の受け入れに向けた調査研究―

日本大学商学部木下征彦ゼミナール
渡辺　瑛仁
藤井　達郎
石川　雅康
坂口　優希

私たちのゼミナールは、これまで主に世界遺産・富岡製糸場を有する富岡市の観光まちづくりについて、地域資源の発掘や観光の課題解決などの観点から研究してきた。過去の研究活動の実績としては、内閣府の「地方創生政策アイデアコンテスト 2019」や、群馬県の研究助成事業「絹ラボ 2020」「絹ラボ 2021」などがある。

私たちはゼミナールとしての経験と実績および日本大学商学部木下研究室による「世界遺産登録が地域社会に及ぼす影響に関する事例研究」の各種調査データをもとに、佐渡市内での持続可能な観光まちづくりに向けた調査研究を行った。佐渡に着目した理由は、佐渡金山が世界遺産への登録が期待されているため、これまでの研究活動の蓄積が活きると考えたためである。

本研究は「佐渡島の金山」（以下、佐渡金山）を対象として、世界遺産登録が期待される佐渡市における観光客の受け入れ体制の調査分析を行った上で、持続可能な観光まちづくりについての提言を行うことを目的とする。

受け入れ体制に着目した理由には、世界遺産登録後に見込まれる観光客急増（オーバーツーリズム ）がある。「観光客の急増」は一見好ましいことのように思える。しかし、観光地側の受け入れ体制づくりによっては、地域住民生活への弊害や自然環境や景観の破壊なども生じる可能性をはらむ。実際、石見銀山や富岡製糸場では、世界遺産登録直後にオーバーツーリズムに直面し、その対応に追われることになった。

私たちはこうした問題背景を念頭に、今回の佐渡金山の世界遺産登録後に見込まれる観光客急増への対処に関する調査研究を開始した。研究を進めるにあたり、世界遺産登録が佐渡市の地域社会に及ぼす影響を想定するために、国内の世界遺産登録地域の経験を先行事例として調査した。具体的には、鉱山跡の歴史遺産である石見銀山や産業遺産である富岡製糸場である。また、いわゆる世界遺産登録を観光まちづくりに活用した好例として知られる熊野古道も研究の対象に含め、佐渡市における今後の観光客受け入れに向けた知見を収集してきた。

情報を収集するにあたり、現地調査を実施した。10 月には相川地区の佐渡金山周辺

の登録後を見据えた「観光客の受け入れ体制」の準備と計画状況を調査・分析した。具体的には、交通、宿泊や観光施設のキャパシティコントロール、案内板の整備、観光ガイドの育成の観点に特に着目し、課題を析出した。

11 月・12 月の現地調査では、株式会社相川車座、佐渡を世界遺産にする会、佐渡観光交流機構、佐渡市地域おこし協力隊、南佐渡地区商工会広域連携支援センター、佐渡市役所、新潟県立佐渡総合高等学校、イワイ工務店はじめ、地域の方々のご協力のもと、相川地区と小木地区の調査を行った。

現地では、相川地区のまちづくり事業を行っている「株式会社相川車座」と共に京町通り周辺の歴史や地域資源の活用について学んだ。また同団体主催の「京町お江戸まつり」にイベント運営者の一角として参加し、実際の活動を体験した。

小木地区では「佐渡市役所」「佐渡市地域おこし協力隊」「南佐渡地区商工会広域連携支援センター」協力のもと、小木町の特色や歴史についての聞き取り調査や町並みの散策を行った。また、「佐渡を世界遺産にする会」のイベントに参加した際には、国指定史跡の佐渡金銀山跡を訪れ、過去の人々の営みについて学んだ。最後に「佐渡観光交流機構」に対しインタビュー調査を行い、佐渡の 2 次交通や観光産業について知見を深めることができた。なお、受入体制への調査については、上記の活動で得た知見や経験と「『佐渡金銀山』保存・活用行動計画」を参照し、計画と現状の比較を行った。

行動計画に照らし合わせて現地調査を行った結果、計画に記載されながらも現状では達成が十分でないと思われる取り組みが散見された。1 次交通の整備、ピーク時の佐渡航路の対応、パークアンドライドの拡充、ピーク時の緊急受け入れ先の 4 点である。これらには季節間の観光需要のばらつきという課題が影響していると考えられる。

また現地調査の中で、2 次交通と案内標識の整備、駐車場の増設、ガイドの育成、そして宿泊施設の拡充、観光施設の整備に関してはリストでは一定の取り組みは確認できたが、十分でないと感じた。多様な観光客を想定した場合バスの増便は必須である。加えて、案内標識は主要観光地のみに留まっており、ガイドに関しても、先行事例の地域と比較した場合、不足していることは否定できない。これら対策は受け入れに関する課題として早急に取り組む必要があると考えられる。

今後は、今年度に引き続き「受け入れ体制」に関する調査を継続する。加えて、調査結果の取りまとめを行い、データの分析を行う。そのうえで、佐渡市内の人々の「内」の視点と私たち学生が調査や分析を通じて感じた「外」の視点、この両者のニーズに応じた持続可能な観光まちづくりに向けた政策を検討する。具体的には、観光面では再訪者の獲得や長期間の滞在者の獲得を目指し、地域面では地域の住民生活との調和を担保する長期的な観光戦略を提示していきたい。また、佐渡金山がもたらす地域への効果を踏まえた上で、島内の地域資源の新しい活用方法を提案する。

私たちが研究するにあたり、ご理解・ご協力していただいた関係者の方々や佐渡の皆様には厚く感謝を申し上げる。